令和5年度第2回豊川市障害者地域自立支援協議会全体会 議事録

日時：令和6年3月27日（水）13時30分から15時00分まで

開催場所：ゆうあいの里 ふれあいセンター研修室

出席者：10機関

豊川市障害者（児）団体連絡協議会
豊川市民生委員児童委員協議会
豊川市医師会
地域アドバイザー（東三河南部圏域）
愛知県豊川保健所
豊川公共職業安定所
社会福祉法人豊川市社会福祉協議会
豊川市子ども健康部
豊川市教育委員会
豊川市福祉部

欠席者：2機関

愛知県立豊川特別支援学校
愛知県立宝陵高等学校

事務局

豊川市福祉部障害福祉課
豊川市社会福祉協議会障害福祉課
豊川市障害者相談支援センター
社会福祉法人としなが福祉会
社会福祉法人アパティア福祉会
特定非営利活動法人メンタルネットとよかわ
社会福祉法人愛知県厚生事業団
社会福祉法人若竹荘
株式会社ほっとケアネット
社会福祉法人清源会

（事務局）

それでは定刻前ではございますが、開会に先立ちまして、本日の会議資料の確認をさせていただきます。皆様に事前に郵送でお送りいたしました「次第」と「委員名簿」と「協議会の組織図」。A3の紙になります。ホッチキス止めで1ページから78ページまでまとめてあります資料。加えて、本日、当日資料として、「令和5年度 個別避難計画進捗状況」当日資料1と「座席表」をお配りさせていただいております。資料が不足されている方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。また、本協議会の内容は、録音させていただき、議事録を市のホームページに公開させていただきます。加えて、本日の議題の内容について、傍聴は差し支えないと思われまので、今回の会議は公開させていただきます。ご了承のほどよろしく願いいたします。なお、自立支援協議会終了後、15時より「障害者差別解消支援地域協議会」がございますので、よろしく願いいたします。

予定より少し早いですが、皆さんお揃いですので、会長よろしく願いいたします。

（会長）

皆さん、こんにちは。只今より「令和5年度 第2回豊川市障害者地域自立支援協議会 全

体会」を開催させていただきます。年度末のお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。本日は、部会の報告など多々ございますので、早速ですが、会議を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

それでは、次第に沿って議事を進めてまいります。議長は、豊川市障害者地域自立支援協議会設置要綱 第5条第4項により会長が務めるということになっておりますので、引き続き私が進めさせていただきます。

本日は、愛知県立豊川特別支援学校様、愛知県立宝陵高等学校様が欠席となっておりますが、設置要綱第6条第2項により、委員の過半数以上の出席がありますので、成立していることも併せてご報告しておきます。それでは議題に入らせていただきます。ここからの進行は、副会長をお願いいたします。

(副会長)

皆さん、こんにちは。

どうぞよろしくお願いいたします。座って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

議題に入る前に、3月6日に行われました「豊川市障害者地域自立支援協議会 運営委員会」の内容について、運営委員長さんからご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(運営委員長)

よろしくお願いいたします。まずは、「運営委員会」の概略ということで、口頭で説明をさせていただきます。

3月6日に行われました「運営委員会」では、自立支援協議会および障害福祉課から報告を行い、意見交換を行いました。自立支援協議会専門部会およびテーマ別会議からは、令和6年度の活動計画について報告がされました。それぞれの部会の具体的な内容については、後ほど事務局から報告させていただきます。

障害福祉課からは、「日中サービス支援型指定共同生活援助の評価」、「委託相談支援事業の実績および令和6年度の相談支援体制」、「豊川市障害福祉支援計画・障害児福祉支援計画」について報告がありました。こちらも後ほど、事務局から報告させていただきます。

また、出席された委員さんから、それぞれの立場で感じられている課題や協議会の取り組みに対するご意見などをいただきました。一例としまして、就労部会の「雇用促進セミナー」について、参加率を向上させる取り組みとして、企業に対して、障害特性ごとにできること、できないことを、見える化し、情報提供をしてみてもどうか。ということと、人材育成プロジェクトの地域生活支援拠点の「体験の場」の検討について、実効性を高めるためには、行政と連携して進めるのがよいのではないか。という意見。こども部会で作成した「サポートファイル」について、子どもに関わる行政部門に働きかけるなど、さらなる有効活用を図る必要があるのではないかというご意見。そして、相談支援部会で地域課題が集約されているが、他の部会に情報共有と課題解決に向けての取り組みができているのか、という意見。最後に、防災対策について、関連死を防ぐためのロードマップ等を整備する必要性を感じた等々、他にもたくさんご意見いただきましたが、一例としてご報告させていただきました。

以上、運営委員会の概略とさせていただきます。失礼いたしました。

(副会長)

ありがとうございました。一部については、また後ほど詳しくご説明いただけるということでありましたので、以上で終わりしたいと思います。

では、続きまして、次第に沿って順番に進めていきたいと思ひますけれども、次に議題2の協議事項の内容を事務局から伝えていただいた後に、意見交換の時間としたいと思ひております。意見交換も併せまして、15時から「障害者差別解消協議会」がありますので、1

4時55分までを目安にこの会議を進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

ではまず、議題2の協議事項について、順次事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

はい。まず「就労部会」につきまして、ご説明させていただきます。1ページ資料1からご覧ください。

「就労部会」の目的としましては、就労支援のための仕組みづくりということで活動しております。今年度は、この中の(2)の「イ. 地域課題の検討」の①、②、3ページの③のところを中心に組み立てまいりました。特に①は、「企業同士の障害者雇用については座談会」ということで、今年度2回開催させていただきました。ここに書いてあるとおりの企業さんと支援機関が参加しました。参加企業の中には、この座談会の中で、いろいろな他の企業の試みを伺って、それを実施されて、それによって、新しい障害の方の採用があったり、雇用率が達成されたり、雇用条件が改善されたりということが、実際に表れてきましたので、良い機会になってきたのかなと思っております。

座談会に入りたい企業さんもまだまだありますので、少しずつ広めながら、この地域の企業さんが、より良く雇用していただけるよう活動をしてまいりたいと思っております。

それから、「雇用促進セミナー」を、10月25日に実施させていただきました。企業さん31社のご参加がございました。ここでは、ご講演をOSGの方にしていただいて、障害者雇用の啓発ができたと思っております。それからグループトークでは、企業と支援機関のより一層の連携が図れたと思っております。

次のページ「定着支援についての促進」については、「自発的活動支援事業」として予算をいただいており、令和3年度に3年計画の今年度は最終年ということで実施させていただきました。精神障害、発達障害の方の就労支援についてということでやらせていただきました。この写真にあるように、皆さんでグループトークをしたり、持ち寄った作品を見せあったり、余暇活動の一環にはなりますけれども、皆さんが本当に楽しく過ごしていただいて、なお且つなかなか人に話せなかった、聞いてもらえなかった、ということが共有できたりして、いい形で繋がりができる活動になっていると思っております。この活動につきましては、ピアのほとんどの方が、継続の実施の要望が大変大多数でございますので、次年度も継続して行く方向で考えております。どこが運営していくかについては、運営委員会さんの方で、このままどこで実施して行っていいかと言うところを投げかけましたが、回答がありませんでしたので、就労部会の方で検討させていただきました。来年度も引き続き就労部会の方でやって行くということで決まりましたので、その方向で実施させていただきたいと思っております。

後は、継続実施として、「教育機関さんとの連携」、「ハローワークさんとの連携」そういうところも順次やって行きたいということが今年度の活動でございます。

来年度の令和6年度の取り組みとしては、5ページのところにあります①から⑤の取り組みについてさせていただきたいと思っております。

先ほど、運営委員長さんからの報告にもあったところもありますが、やはり企業さんが何を求めているかについて、改めて企業さんに問いかけようと言うことで、アンケート調査を実施したいと思います。それと就労系の福祉施設のアンケートとして、企業さんが、今、雇用率がどんどん上がって行って、障害者雇用が高くなっています。ですが、そこに事業所からもどんどん就職が進んで行くような方向性も必要かなと言う声もありますので、その辺の調査も進めながら取り組んで行きたいと思っております。それと、②については、今年度同様、企業座談会とセミナーを、障害者雇用の促進というところで進めていきたいと思っております。

後は、先ほど申し上げました「定着支援」につきましては、ピアトークを来年度も就労部会の方で継続して行く中で、特にピアの方々自主的に動いてくださるのがすごく目立ってきたとおり、本当によくできてきたので、そこを中心に進めて行きたいと思っております。

教育機関との連携等も、今年度同様進めて行きたいと考えております。

以上、「就労部会」からの報告を終わらせていただきます。

(事務局)

こども部会について、報告させていただきます。6ページ、資料2をご覧ください。

令和5年度の取り組み内容として、2の(1)「サポートファイルの周知拡大」、(2)「教育機関等への協力依頼・連携」、(3)「児童発達支援から保育園、幼稚園、学校などへの就園、就学移行」を行ってきました。

隣の7ページをご覧ください。7月25日に市内小中学校の特別支援教育コーディネーターの先生の方たちに研修に参加させていただきました。内容は、一つ目に、相談支援専門員の役割、仕事の内容などについて説明し、理解を得る機会としました。後半のグループワークでは、先生方のそれぞれグループに相談支援専門員も入らせていただいて、情報共有を図ったり、サポートファイルの活用方法について伝える機会となりました。

また、1月22日には、就学移行の研修会およびサポートファイルの活用教室を行いました。児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、指定相談支援事業所、委託相談支援事業所、行政、事務局合わせて47名の参加がありました。内容は、①就学移行では、小学校や特別支援学校の入学に向けての、いつのタイミングに、どこから誰に相談していいのかなどの、流れを学ぶ機会になりました。②相談員から見たサポートファイルの活用方法では、実体験をもとに、相談員と家族の2面から共通のツールの大切さをお話ししていただきました。③就園移行の現状と課題については、実際の事例を通じた実践報告をしてもらいました。

次に、令和6年度に向けた取り組みです。(1)「サポートファイルについて」ですが、現在、こども部会主導で普及啓発活動を行っていますが、なかなか普及啓発ができていないのが事実です。やはり行政の力が必要で、行政への引継ぎをしたいのですが、引継ぎ先が未定の状態です。本来は、サポートのファイルがなくても繋げていかなければいけない。繋がらなくてはならない。そこをこども部会が担っていかなければいけないと感じております。来年度は、子どもをつなぐ行政機関の担当の部署の方々にも関わってもらえるよう依頼をしていきたいと考えています。(2)「教育機関等への連携と福祉サービスの理解と促進」では、今年度に引き続き、顔の見える関係構築を図ると共に、福祉サービスや相談支援専門員への理解を進めていきます。(3)「就園就学の移行支援の加算の施策化」についてですが、これまで市内の保育士や児童発達支援事業所にアンケートを実施し、就園移行の必要性について意見をいただきました。引継ぎのためのシートも作成しています。そんな中、令和6年度からの報酬改定で就園移行についての加算が付くこととなりました。しかし、この加算については、回数などの条件があるため、より丁寧な就園移行の引継ぎができるようにするため、豊川市として独自の施策化を引き続き目指して行きたいと考えています。

「こども部会」の報告は以上になります。

(事務局)

続きまして、「人材育成プロジェクト」の活動報告および来年度の取り組みにつきまして、報告させていただきます。資料は8ページ、資料3になります。

「人材育成の仕組みづくり」ということで、初任者研修および各連絡会が自主的に活動できるよう取り組んで参りました。9ページの4の令和5年度実績です。

取り組みに(1)「障害福祉事業従事者初任者研修」を11月24日に開催。内容はここにある通りですので、目を通していただければと思います。研修を開催するに当たりましては、下の*印のところにあるよう、各事業所連絡会の代表者の方々に参画いただき、研修内容の打ち合わせ、当日の役割なども担っていただいております。

10ページ、取り組みの(2)です。「各事業所連絡会の開催」についても、ここに記載のとおり、「短期入所事業所連絡会」、「日中活動事業所連絡会」、「居宅介護ヘルパーの

事業所連絡会」を定期的で開催しております。「短期入所事業所連絡会」については、定期的な開催が軌道に乗ってきているという状況です。

令和6年度の取り組みについて、令和2年度から4年間にわたり「地域生活部会」から派生した人材育成にスポットを当てたプロジェクトとして活動しました。「人材育成プロジェクト」は、今年度で一旦区切りをつけて終了させていただきます。来年度は、また「地域生活部会」として活動していきたいと思っております。まず(1)「事業所連絡会代表会の設立」です。地域の課題を吸い上げるために代表会を設立しようと思っております。今、私たち相談支援専門員からは、地域課題を出しているのですが、各事業所さんからも、地域の課題を出していただきたい。そして、事業所さんも、他事業の地域課題を知ること、豊川市全体という広い目で地域を見ていくことができるのではないかと考えています。また、情報共有、情報交換を行うことで、異なる事業所間での活動内容も共有でき、視野が広がっていくと考えています。そして、各連絡会から初任者研修への参加を依頼し、初任者研修の継続も行っています。

(2)「体験の場の検討」です。地域生活支援拠点の5つの機能の中から、体験の場にスポットを当てて、有期限でのプロジェクトとして活動していく予定です。障害者支援施設や精神科病院に入所、入院されていらっしゃる方々が、地域生活に移行するための宿泊体験をはじめ、親元からの自立を目指していらっしゃる方、グループホームに入居されているけれども、今後ひとり暮らしを希望する方などが、地域での生活を体験する場を整えていくために、地域の方や不動産関係者等、異業種の方々の参画を試みて、行政とも連携しながら体験の場を通して地域とのつながりを強固なものにしていきたいと考えております。(3)「事業所連絡会への関わり」。(1)事業所連絡会代表会の立ちあげにも関連するため、日中活動事業所連絡会、居宅介護ヘルパーさんの事業所連絡会の定期的な開催を目指して、関わりを続けていきます。

「人材育成プロジェクト」の活動報告は以上となります。

(事務局)

続きまして、12ページ資料4。「医療的ケア部会」につきまして、ご説明をさせていただきます。

この「医療的ケア部会」ですが、人工呼吸器。それから経管栄養、喀たん吸引という医療的ケアが必要な方でも、医療的ケアがない方と同様な地域での暮らしができるようにということで、その実現に向けて協議をしていく場となっております。

今年度の取り組みにつきましては、12ページの2。これは、第1回目の協議会でお伝えさせていただいたものです。13ページの年間スケジュールがございませうけれども、滞りなく行っております。具体的に簡単に説明をさせていただきます。13ページ4の実績(1)「周知・啓発・人材育成のための研修開催」ですが、これはやはり医療的ケアの方につきましては、なかなか協力してくれる事業所がそれほど多くないという現状があります。協力してくれる、それから理解してくれる支援者を増やしていくという目的で、豊橋市民病院。それから豊川市民病院の協力を得て実施しています。①「医療的ケア入門研修」は、豊川市民病院のご協力を得まして。これはもう実際に医療的ケアについて支援の経験がない支援者を中心に、実際に使用するカテーテルや気管カニューレ、経管栄養のチューブや導尿の道具。あとインスリンなどを、直に触っていただきまして、見て触れてやってみるといふ。そんなところで、この医療的ケアというのを知っていただくということで。次のページの14ページに写真を掲載させていただいております。それからもう一つ、②「啓発研修」ですが、こちらは豊橋市民病院のご協力を得まして行っております。こちらは座学で、豊橋市民病院からの課題提起という形で行っております。特に、退院時、病院としても命を守るだけではなく、QOLを重視するため、福祉あと教育、保育等との連携をしていくことの重要性ということを改めてお話をいただいております。それから、その下(2)「保護者交流会」につきましては、同じような状況。医療的ケアのお子さん等を介護している保護者の方が、オンラインで交流会というのを持っていただいております。具体的には、夏休みにどのようなとこ

ろに行ったか、その時にどのようなことに気をつけていたか、等の交流を行っています。その中で、話題となったところで、日常生活用具に関することがありました。この支給基準につきまして、他の市と豊川の方で違いもあることもございまして、こちらは、豊川市の方が改めてこの日常生活用具全般について検討していただいているということになっています。その他（４）「就園・就学等のライフステージの移行に関すること」ということで。現在、保育園、小中学校等でも医療的ケア児の受け入れというのを各市町村でも検討しているところですが、豊川の方では既に保育園、小中学校でも取り組んでいただいているところでして。今年度、その中学校を卒業した後も、特別支援学校ではなくて、高等学校を希望されている方もいらっしゃいました。これにつきましては、県の協議会。あと医療的ケア児支援センター。圏域の方の担当ですけれども、そことも連携しながら、対応しております。なんとか合格もできたということで、この４月以降、高校生活を送られるということになっております。

このような状況。その他、緊急時の対応のこと。あと連携体制を作る等、今年度行ってきましたが、令和６年度につきましては、これをさらに広げていきたいということと、研修につきましては、まだ人数がそれほど多くないので、ぜひ何とか来年度は、これを広げていきたいと考えております。

「医療的ケア部会」は以上です。

（事務局）

はい。（５）「テーマ別会議」について。資料５－１。１７ページからのものを使用しまして、豊川市障害者相談支援センター武藤より報告させていただきます。

まずこの「テーマ別会議」について。地域課題の解決に向けて協議をする専門部会の中で、さらに継続的により特化したテーマについて協議をする場として位置づけさせていただいております。令和５年度のテーマ別会議については、「地域移行ネットワーク会議」、「防災検討会議」、「合同事業説明会」、「地域生活支援拠点検討委員会」この４つを実施させていただきました。この令和５年度の活動報告および令和６年度の重点項目に関しては、続きましての５－２、５－６の資料を用いて、それぞれから活動報告をさせていただきます。

１８ページをご覧ください。「地域移行ネットワーク会議」ですが、主に精神障害がある方。今ですね、もともと豊川市にお住まいの方で、精神科病院に市内市外に入院をされていらっしゃる方が、約２００名いらっしゃいます。その方たちの半数以上は、１年以上の入院です。そしてまた同じく半数以上が、６５歳以上の方という形になっております。治療は既に終わっているのですが、様々な理由で社会的入院ということですが。退院につながらないという方が多くまだまだいらっしゃいます。そんな方々に対する退院支援を促進していく。ということと同時に、ただ退院を支援していただくだけでなく、退院後にも地域生活の充実を図っていけるように、医療機関、保険機関、福祉、行政等々連携を図りながら様々な課題に対する取り組みもしつつ、環境を整えていく町づくりをしていく会議になっていきます。今年度は第１回目で改めて、保健所さんからも豊川市の現状と国の動向もお話いただきながら、改めて退院支援、そして町づくりをしていく必要があるよね。という話をいただき、関わる関係機関の皆さんから、改めて課題をたくさん挙げていただきました。第２回目では、その課題に対してどのような取り組みが考えられるか。豊川市としてどのような取り組みをすればいいのか。というところを、委員の皆さんからご意見をいただき、第３回目ではそれを具体的に、これからやっつけていこう。これをいつからやっつけていこう。どういうふうにやっつけていこう。というところを考えさせていただき、翌年度につなげていくという形になっております。

大きな課題を改めて整理をする中では、高齢分野との連携、地域移行、地域定着支援の充実、地域の方々への理解促進、緊急時の対応や罪を犯した障害のある方への支援に関する課題を含め４つ。それに対する課題を、今後それぞれで、ワーキングチーム等を立ち上げながら取り組みを行っていきたいと思っています。

２の（４）「気になる行動のある方の支援に関する検討会」。これは昨年度から上がっている強度行動障害のある方への支援に関する検討会になっておりまして。こちらの活動に関

しては、また後でお話をさせていただこうと思っておりますが、来年度この「地域移行ネットワーク会議」では、3の(2)。まずは先ほど言った4つの課題に対してワーキングチーム。また他機関との協働によって課題解決に向けて取り組んでいきたいと思っております。それぞれの取り組みを、今年度も開催した「地域移行ネットワーク会議」。全3回ある会議の中で、集約し、情報共有を図りながら、必要な助言。そしてまたワーキングチーム等々で取り組みを実施していく流れで行っていきたくと思っています。1つ大きな取り組みとして、やはり精神障害のある方への充実した生活を送っていただく退院支援を促進するためにも、医療分野との連携がすごくポイントに上がってきます。ということで、今年度、3月13日に改めて福祉分野が主導とさせていただきますが、医療連絡会というのを開催させていただきました。市内市外の精神科クリニック、入院病床を持っている精神科病院、相談員さん。そして市内の精神科訪問看護ステーションさんにお集まりいただき、日々の困り事の共有や今後の課題に対する取り組みについて検討させていただいております。来年度以降もまたその他にも精神科クリニック、ご参加いただけてない入院病床のある病院もあるので、お声かけをさせていただきますながら、医療連絡会の充実を図っていければと思います。

本日、医師会の委員に出席いただいております、4月以降、市内で児童精神科が開院される予定とお伺いしておりますので、また来年度以降、相談員さん等含めて意見交換、共有もさせていただきますながら、一緒にこの課題に対して取り組んでいけるとありがたいと思っております。よろしく願いいたします。以上です。

(事務局)

ただいまご報告をさせていただきました19ページ(4)「気になる行動のある方の支援に関する検討会」について、少しまた説明させていただきます。この強度行動障害の状態というのが、自傷、他害あと破壊行為等が顕著な方で、なかなか地域で受け入れてくれる事業所が少ないという現状の中で。実際には、精神科病院等でお願いせざるを得ないという。そのような現実がございます。その中で、この地域移行ネットワークの中から、特にこちらのほうを別のプロジェクトチームという形で検討しております。方向性を決めるための準備会を3回。あと実際に日中活動の事業所の支援者の方にも参加していただきまして、検討会を2回開催しております。その中で、厚生労働省が示していると書いてありますが。これは受け入れができる事業所等を増やしていくのが本当はベストなのですが、なかなかそう簡単にはいかないということで、国の方も地域全体で支援力を向上させる。それから困っている事業所があれば、そこに助言ができるような、そんな地域の体制づくりを。ということで、この人材育成それからコンサルテーションというのを進めていくという方向性があります。豊川市の方でもそれを意識して、実際のケースをもとに事例検討する方向となりました。今年度、1件のケースをもとにオンラインのケース検討4回、委員の方から支援のアイデアを出していただいて、その次のインターバルの間、1か月の間に、その事業所に持ち帰っていただいて、実際に取り組んでいただく。また今度この委員会の方に持ち帰っていただきまして、また改めてみんなで検討する。ということをして4回繰り返していきました。まだまだ始めたばかりの状況です。数か月で簡単に解決できることではないのですが、引き続き来年度もこのような状況で検討していきたいと考えております。

続きまして、20ページの「防災検討会議」についてもご説明させていただきます。

こちらの「防災検討会議」では、現在、市の方で進めております要援護者等の「個別避難計画」の作成。こちらを進めていく動きを作っています。(2)になります。今年度につきましては、先進的に進めています高知県の方から、地域福祉政策課の方を講師としてお迎えして、研修会ということで、この「個別避難計画」について考える機会を作っております。来年度につきましても、引き続きこの「個別避難計画」。市の「個別避難計画」の作成予定と合わせまして取り組んでいきますが、そこだけではなく、その課題を共有しながら整備していくという機会も作っていきたくと考えております。

また以前、協議会等でも作成しました避難場に設置する支援者向けのマニュアル。これは

障害者の理解を促すというようなマニュアルですが、こちらの活用状況や個人が持つヘルプカードの活用状況についても確認していく機会を作りたいと考えております。

「防災検討会議」は以上となります。

(事務局)

続いて「合同事業説明会」について、21ページの資料を用いて説明をさせていただきます。

この「合同事業説明会」ですが、日中通所系サービスを提供する事業所の情報を市民の方。メインは、学生のお子さん、親御さん向けに情報を届けていくものです。令和元年度までは集合開催をしていたのですが、コロナ禍により感染対策のもとで集合での開催を控えており、その間は、市のホームページの方にサイトを開設させていただいて、そこで情報提供していたのですが、令和6年度より改めて集合開催を実施していくという流れになっております。サイトに関しては、年間通して4,000件以上閲覧をしていただいております。その結果、また来年度以降もサイトの開設に関しては、継続していきたいと思っておりますが、令和6年度に関しては、先ほども申し上げたとおり集合での開催を。5月19日に勤労福祉会館の方で行うということで、事業所紹介とミニ講座という形で開催を予定しております。

引き続き来年度もホームページ上のサイトを掲載させていただきながら、サイトの充実を図っていくと共に、集合開催に向けて具体的に進めていきたいと思っております。以上となります。

(事務局)

続きまして、「地域生活支援拠点検討委員会」について、説明させていただきます。お手元の資料は22ページ 資料5-5をご覧ください。

地域生活支援拠点、この説明の中では「拠点」と表現させていただきますが、拠点とは、障害のある方の重度化や高齢化、そして介護していた親が亡くなられた後の事を見据えた居住支援のための機能を持つ場所や支援体制の事で、厚生労働省が各自自治体に対し整備を求め、本市においては、令和2年度末に整備を完了しております。また、拠点は、相談、緊急時の受け入れ、体験の機会、専門的人材の確保、養成、地域の体制づくりの5つの機能を有する事とされており、地域の実情に応じて整備をし、障害のある方の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築していくものとして、整備後は各機能の充実を図るため、年1回以上検討、検証する事とされており、本市においては、年2回検討検証の場を設けております。

今年度の取り組みといたしましては、市内の相談支援事業所を対象に、昨年度、当委員会で作成をしました豊川版の評価表を用いた評価を初めて実施しました。その後、評価の結果について検討し、拠点の更なる機能向上に向け、本市における拠点の役割を分かりやすくすること、相談機能の充実、体験の場の確保を、次年度に向けた重点項目としております。

「地域生活支援拠点検討委員会」についての報告は、以上となります。

(事務局)

続きまして、24ページ、資料6-1。「相談支援部会」について、報告させていただきます。

「相談支援部会」は、毎月、委託相談支援事業、障害福祉課、基幹センター。そして今年度も昨年度から参加いただいておりますコミュニティソーシャルワーカーにも参加いただいて、ケースの報告の共有と地域の課題の抽出を行っております。また、指定相談支援事業所においては、年1回、相談支援事業所会議におきまして、ケースの報告をいただいて課題の抽出と、事例検討会でとり上げられたケースから、地域の課題と思われるものを取り上げて、まとめたものを地域課題整理表としてまとめております。この課題整理表からは、高次脳機能障害、精神障害、強度行動障害に関する社会資源の不足であったり、支援に専門性があることから支援の難しさ、人材育成といった課題が挙がっております。

精神障害、強度行動障害については、先ほど地域移行ネットワーク会議の報告にありましたように、今後もこの会議等で取り組み、検討を進めていく必要があると考えております。また高次脳機能障害に関しましては、今年度は、全体で3件報告が挙がっており、地域に社会資源が少ないことで、遠方に行かなくてはならなかったり、支援の専門性が要るところで、支援のしづらさといったものが課題として挙がっております。この3件という件数に関しましては、例年と比較すると多く報告が挙がっており、今後検討が必要な事項と考えております。

また、医療的ケアが必要な方が利用できる社会資源の不足については、継続して課題として挙がっており、先ほど医療的ケア部会でも報告がありましたが、今後も検討、取り組みを継続していく必要があると考えております。

継続した課題の中で、8050世代、ひきこもり、多問題家族、不登校の方の支援。そういったことが多く取り上げられており、障害とは限らないケース。家族全体に支援や対応が必要となるケースも多くあります。現在、相談支援部会に、コミュニティーソーシャルワーカーに参加をいただいておりますが、今後も引き続き参加をしていただき、ケースの共有、地域課題の共有を図るとともに、コミュニティーソーシャルワーカーと連携、協働することが必要だと考えております。

その他に、精神発達障害の方への就労支援について、社会資源の不足であったり、就労継続への支援の難しさ、権利擁護に関することや金銭管理に関する支援、知的障害の方の妊娠出産、そして性教育支援、SNSの使い方であったり、デジタルタトゥーといった時代の変化と共に挙がってきている課題というのもあります。これについても、今後検討が必要かと思われま。

また、挙がってきた地域課題に対して、取り組みの状況をまとめたものが、資料6-2になります。33ページ、34ページになりますが。このように抽出された地域課題に対して、令和5年度、令和6年度の取り組み、専門部会やテーマ別会議等で取り組んでいる状況について整理したのになりますので、ご参照いただければと思います。

「相談支援部会」については、以上です。

(副会長)

ありがとうございました。

ただいま各部会から、令和5年度について、様々な取り組みをしていただいていること、それから6年度に向けての予定などを説明していただきました。

せっかくですので、委員の皆様から、今の報告内容について、説明内容について、ご感想ですとか、ご質問、ご意見等ありましたが、挙手をお願いしたいと思います。

(委員：豊川市社会福祉協議会)

1点いいですか。

(副会長)

豊川市社会福祉協議会様、お願いします。

(委員：豊川市社会福祉協議会)

はい、豊川市社会福祉協議会でございます。

「防災検討会議」の中での説明だったと思いますけれども。「個別避難計画」の作成で、また今日の当日資料で実施状況が出ておりますが。この6年度の実施校区ですべてではなく、まだ残りの校区はありますよね。「個別避難計画」ということであれば、いつ災害が起こるか分からないということであれば、なるべく早くに全地区をやっていただいた方がいいと思うのですが。その辺の取り組みはどういう状況になっているかご説明いただければ。

(副会長)

事務局。

(事務局)

はい、当日資料の1につきましては、後ほど説明させていただくのですが。令和6年度は、当日資料にある地区をやります。令和7年度までに全部の地区をやりますので、残りにつきましては、令和7年度にやっていく形になります。7年度いっぱい全地区を一応完了する形でやっております。以上になります。

(副会長)

他にあれば。

(委員：地域アドバイザー)

はい。

(副会長)

地域アドバイザー様。

(委員：地域アドバイザー)

はい、地域アドバイザーです。

医療的ケア部会のことをお伺いしたいのですが。豊川市さんも今、障害福祉サービスが非常に増えてきて、概ねどなたも福祉サービスを使いやすい状況であると思うのですが。やはり強度行動障害のある方とか、医療的ケアのある方というのが、豊橋でもまだまだ使いづらい状態で。特にこの「医療的ケア部会」の中で、12ページの(7)に社会資源の不足とありますけれど、この現状ですね。今、放課後等デイ、生活介護、ヘルパーといったところが、きっと地域の資源になってくるかと思うのですが。今どれぐらいの数が利用できるのでしょうか。また、そういった事業所を増やすための取り組みはどのようにされているのかを、少しお伺いできればと思いますが。よろしくお願いたします。

(副会長)

事務局さん、いいですか。

(事務局)

すみません、数については、ごめんなさい、なかなか私の方では把握できていないのですが。後で、不足で障害福祉課の方からありましたら、答えていただきたいと思います。

実際、今この豊川の強みというのは、信愛医療療育センターがごぞいます。これはやはり、他の地域と違って恵まれているところです。東三河全体になるのかもしれませんが。ですので、そちらの方で、児童発達支援事業だとか、放課後等デイサービス、それから生活介護、短期入所等も、実は行ってくださっていますので、そういう面では、豊川すぐく恵まれている状況です。一方で、恵まれているのだけど、信愛医療療育センターだけでやはり行くのはどうなのかなというところもごぞいます。もう少し違うアプローチもできる可能性もごぞいますので、そんなところで、今また信愛医療療育センターの方にも、これ医療的ケア部会の方の活動にも加わっていただきながら、他の事業所。細々ですけれども、でも実際にそういう医療機関とは持っていない事業所の方々も、放課後等デイサービス等を受入れてくださっているという事例も出ておりますし。あとヘルパーにつきましては、ヘルパー自体がかなり今も少ないという状況です。これ医療的の喀たん吸引等ができるヘルパーは当然少ないのですが、それ以上にヘルパー自体も今、不足しているところですので、これはちょっと豊川だけじゃなくても圏域、県レベルでもちょっと一応議論していく必要があると感じており

ます。

(委員：地域アドバイザー)

できればまたそういったところに資源が出てくることなどありますので、ぜひよろしくお願ひします。

あともう1つは、やはり信愛さんがあることは知っているのですが、利用者の方にとって選択肢があるということがとても大事になると思いますので、ぜひ事業所が増えるような取り組みをしていただけると、利用者が選択できる、生活ができると思いますので、ぜひよろしくお願ひいたします。以上です。

(副会長)

はい、ありがとうございます。では、他に。では、豊川市民生委員児童委員協議会様。

(委員：豊川市民生委員児童委員協議会)

民生委員児童委員協議会です。よろしくお願ひします。

先ほど資料のご説明の中で、「人材育成プロジェクト」の資料の中の10ページのところで触れていただいたわけですが。5の(2)「体験の場の検討」。その中の後半の部分に触れていますけれども。今後、ひとり暮らしを希望する方等が、地域での生活を体験できる場を整えていくため、云々とありますが。これの中身としては、他の市等で取り組んでみえる居住支援協議会ですよね。そのようなことを見据えた形の内容なのか。それともそこまでは考えてないのか。そこら辺ちょっと、教えていただきたいと思いますが。

(副会長)

事務局さんいいですか。お願ひします。

(事務局)

ご意見等ありがとうございます。こちらの資料10ページのところに記載があります、「体験の場」というところをまず説明させていただきたいと思うのですが。こちらで今イメージしているものにつきましては、豊川市内で、例えば、公的な機関が借り上げているようなアパートのような空間において、ひとり暮らし、もしくは宿泊の体験ができるようなところ。これは、ニーズとしてはとてもありますが、今実際にはないという現状です。例えば、医療機関ですとか、あとはグループホームですね。長く、看護またはとにかく支援を受けながら生活をされてきた方が、自立度が上がってまいりまして、実際にご自宅もしくはアパート等でひとり暮らしを始めようとなった場合に、このような施設が体験の場として市内にあるほうがよいのではないかと考えたものが、この体験の場というものになります。先ほど豊川市民生委員児童委員協議会様がおっしゃられました居住支援協議会につきましては、協議会自体は、現在豊川市には協議会という名前のものはございません。建築課の方で住宅マスタープランというものが策定をされていますけれども、その中に、住生活に関する主な課題ということで11の課題が挙げられており、障害のある方や高齢者の方で入居支援が必要な要配慮者という表現がしてございます。このような方々について、住まいの確認ができるよう国土交通省が住宅のセーフティーネット制度というものを、2017年から始めております。このアパートなら、この借家なら要配慮が必要な方に提供できますっていうものをまず登録する制度です。まず自治体としては、要配慮が必要な方に入居していただけるように、民間に対しては制度の周知、市民の方に対しても、この取り組みの周知を進めていくことが課題だと言われています。実際に、市営住宅の方では、要配慮者については、単身世帯での入居をOKにしていたり、減免の制度はありますけれども、この制度を推し進めていくためには、建築の部門だけではなくて、私たちも関わることで重層的な対応が必要と考えております。以上です。

(委員：豊川市民生委員児童委員協議会)

ありがとうございます。

(副会長)

はい、ありがとうございます。では、豊川市医師会様お願いします。

(委員：豊川市医師会)

豊川市医師会です。よろしくお願いします。

この「個別避難計画」と言うのは、これは何か訓練をしている、避難訓練をしているのですか。計画を作っているのですか。

(事務局)

まず概要を説明させていただきます。

まず「避難行動要支援者支援制度」というのがありまして、災害時に自ら避難するのが困難な方が、事前に台帳というものに登録していただいて、民生委員と市と自主防災会で共有しています。その中で、より一人一人の支援のための計画である「個別避難計画」を、令和3年5月に災害対策基本法が改正され、作るようになって、本市では令和4年度から行っています。「個別避難計画」を作る時に、作った方に対して避難訓練を行いますか、という確認をしながら進めているのですが。現在まだ避難訓練を行われた方は10件にもいってないぐらいになっています。地域の自主防災会等に避難訓練をお願いするということも現状はできてなくて。というのは、コロナ禍の中で、なかなか避難訓練をしている地域もあまりないものですから、現状は作った方に対して、その支援者を含め、避難訓練という形で確認をしているというのが、いまの現状となっております。

(委員：豊川市医師会)

ありがとうございます。医師会でも今、防災の方は一生懸命やっていると思うのですが。市の防災の方とも話し合いながらやっているが、なかなか医療のところ、市の方にうまく伝わっていなかったり。あるいは、救護所を作る時に、医薬品をどうしよう。その用意は誰がするのか。誰が管理するのか。いろんな話がある訳なのですが。そういう話の中に入っていますかね。何か避難訓練をやっていますね、防災で。この前もちょっと大きくやったのですが。小学校、中学校で。その時は、市と警察と自衛隊と医師会とトリアージしながらやっていくという大規模な訓練をやったのですが。本当はそういうとき、参加していただけるような状況があると本当はいいかなと思うのですが。実際に起こった時にどういう動きをするのかということだと思のですが。そういうのは、話がいつているのですか。

(事務局)

実情をちょっとご説明させていただきますと。私は、たまたま保健センターが前職でありましたので、委員の言われることはよく理解できました。「個別避難計画」の避難訓練につきましては、先ほど説明させていただきましたが、計画を作って、その先にある避難訓練というものに結びつけていく必要があるというふうには、私ども理解しております。ただ情勢がコロナの情勢だということもあり、大々的に避難訓練を、何かにリンクさせてやるということまでは、実情できていません。ですので、防災対策の部署であったり、そういったところと、あと例えば医療分野の保健センターであったり、そういったところと、今のところまだ、整合性がとれてない状況になっているのですが。今の状況は計画を作った中で、個別にこの方がどういう避難をタイムラインとしてこうやっていくかっていうところを計画に落とし込んで、その計画に基づいて、その個人、ご本人さん、当事者のご本人さまの状態によりますけれども、ご協力をいただいて、何とか地域の支援者を交えて、避難訓練をやってみた

い、やるべきだというところで、事が進みましたら、個別にその人その人、一つ一つのケースを当たって、訓練を実施しているのが、先ほど10件ちょっと満たないぐらいの状況になっていますが、そんな形で今はさせていただいております。

(委員：豊川市医師会)

ありがとうございます。

ここ1年、2年ぐらいで、医師会の先生方が、各避難場に出向いて、どこでトリアージをしようか。どこでどのように誘導して、どこから入ってきて。というのを、市の方と一緒に話し合いをしたのですね。各地域の先生方が、その地域の先生方が集まって、中学校に行き話し合いをして、このようにしていきましょう。という話し合いが、実はあったのですけど。この前、ちょっと大きめの避難訓練をしたのですが、今後ちょっと2年ぐらいかけて各中学校でそれをやっていこうという計画が今ありますので。できれば、実際にその方々に声をかけるは難しいかもしれないですけど、関係者が1人でも来ていただいて、こういうことやっているのだ。実際の場面では、こここのところに入っていかなきゃいけないのだな。というのを体験していただきたいなと思うので。市の防災ともぜひ情報共有していただけると。

(事務局)

はい、いろんなご提案をありがとうございました。防災の担当の部署とも、「個別避難計画」を作成する上で、綿密に繋がっております。お話を情報共有していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。ありがとうございました。

(委員：豊川市医師会)

4月から市内に小児精神科が開院します。新たに来る医師は、非常にやる気のある先生で、すごくパワフルな感じの人間です。いろんな話し合いとかしていただいて、ぶつかっていただいて構いませんので、どんどん関わってくださればと思います。

(副会長)

ありがとうございました。他にありますでしょうか。なければ、時間の都合もありますので次に進めていきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では次に議題の3について、事務局のほうから報告をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(事務局)

はい、それでは、報告事項の(1)から(4)について、報告をさせていただきます。

まず、次第3の(1)「日中サービス支援型指定共同生活援助事業所の評価について」報告をさせていただきます。資料は、35ページ、資料7をご覧ください。

まず、「日中サービス支援型指定共同生活援助事業所」につきまして、この報告の中では「グループホーム」と表現させていただきますが、グループホームの評価については、基準省令に「地方公共団体が設置する協議会等に対し、年1回以上、事業の実施状況を報告し、協議会等から評価を受けるとともに、当該協議会等から必要な要望、助言を聞く機会を設けなければならない」とされております。現在、市内で評価の対象となりますグループホームは3か所であり、今年度は3月11日に評価の場を設けております。評価の内容につきましては、資料の36ページからとなっております。ご覧ください。時間の都合もございますので、主な項目について報告をさせていただきます。すべてのグループホームに共通しておりますのは、研修内容の充実など、運営法人が人材育成に力を入れ始めたこと。職員の権利擁護の意識が全体的に向上していること。以前に比べ職員の離職が減少し、定着が見られること、を「評価できる点」として挙げております。また、支援の現場において、支援の統一が求められますが、障害特性に対する理解の有無により、支援方法にばらつきが生じかねない

事から、障害特性の理解を深めることを「利用者のために努力していただきたい点」として挙げております。なお、今年度については、グループホームにおける食材費の過徴収について大きく報道されました。現時点で、処分の有無等、定かな情報はございませんが、当該法人が運営する「グループホームふわふわ豊川」の評価の場においては、今後、いかなる状況が発生したとしても、法人全体で利用者の事を第一に考え、利用者が生活に困る事のないよう、最大の配慮をお願いする旨、伝えており、評価結果にも記載しております。

「日中サービス支援型指定共同生活援助事業所の評価について」は、以上です。

続きまして、報告事項（２）「委託相談支援事業の実績および令和6年度の相談支援体制について」報告させていただきます。

まず、委託相談支援事業の実績について報告させていただきます。資料は39ページ、資料8-1をご覧ください。今年度4月から1月の10か月の件数は4,967件となっており、前年に比べ181件増加しております。また、相談者については、本人の割合が増加しており、市内の委託相談支援事業所の認知が高まっている結果だと考えられます。

次に資料の40ページをご覧ください。ここからは、委託相談支援事業所が行った取り組みに対して、市が評価した内容となります。主な評価内容としましては、地域課題を意識し、事業所間で密に交流し、問題解決に向けて自発的に活動され、困難ケースにも積極的に対応されている事について高く評価しております。また、障害者地域自立支援協議会においては、地域課題を意識し、活発に活動され、多くの取り組みで成果が挙がっており、地域福祉の充実、向上に繋がっている点を評価しております。なお、現在、多くの取り組みが行われており、取り組みの中には煮詰まってきたものもあります。自立支援協議会だけでは解決できない課題もありますので、取り組みの経緯や目標、必要性を可視化し関係機関に伝え、連携・協働を図るなど、実現に向けて計画的かつ多角的に取り組まれることを期待しております。

続きまして、基幹相談支援センター事業の実績について報告させていただきます。資料は49ページをご覧ください。今年度4月から1月の10か月の件数は1,884件で、前年に比べ85件増加しております。

次に資料50ページをご覧ください。ここからは、基幹相談支援センターが行った取り組みに対して、市が評価した内容となります。主な評価内容としましては、地域課題の抽出の精度が高く、さらに高齢、子ども、教育機関等と積極的に連携を図るなど、抽出された課題に対して、改善解消を意識した取り組みが出来ている事を、昨年度に引き続き、高く評価しております。また、今年度、基幹相談支援センターからの提案で、市内すべての相談支援事業所を、私ども行政と訪問をし、各事業所が対応した実際の事例を基に事例検討を行う取り組みを開始しました。結果、普段と異なる視点で意見を交わすことで、双方に気づきが得られ、業務上の悩みなどを共有したことで、地域の相談支援の質を高め、人材の育成、定着も期待できる取り組みとなりました事を高く評価しております。

また、改善を期待する点としましては、今年度、基幹相談支援センターの職員を1名増員しておりますが、事務室に残る職員が少ない事がしばしばあります。基幹相談支援センターには、今後も積極的な取り組みを期待すると共に、地域の相談支援の中核として、常に専門的に相談を受けることができ、かつ緊急時に対応できる体制の実現に努めていただきたいことを記載しております。

最後に、令和6年度の相談支援体制について報告させていただきます。資料は、56ページ、資料8-2をご覧ください。今年度の体制と比較し、全体的に相談支援体制は大きく変わりませんが、令和3年度から信愛医療療育センターに委託をしております医療的ケア児等総合支援事業について、ご担当者さまの配置が難しい状況であることを受け、調整を行いましたが、年度当初から、これまでと同様に委託することが困難であると判断されたため、一覧から削除しております。なお、当該委託内容を地域の関係機関で担う必要がありますので、現在調整を行っている状況でございます。

また、指定の相談支援事業については、指定特定事業所が1から2に増加しました。

「委託相談支援事業の実績および令和6年度の相談支援体制について」は、以上となります。

(事務局)

それでは、続きまして(3)「豊川市障害福祉支援計画・豊川市障害児福祉支援計画について」説明をさせていただきます。資料は、資料9、57ページをご覧ください。

令和5年度は、第6期豊川市障害福祉支援計画および第2期豊川市障害児福祉支援計画の最終年度となっております。PDCAサイクルによる点検、評価をすると同時に、令和6年度からの第7期豊川市障害福祉支援計画および第3期豊川市障害児福祉支援計画を策定いたします。次期計画につきましては、すべての策定委員会が終了し、現在完成した冊子に関係者のみなさまと、庁内各課への配布作業を進めております。本日は、主に現行の計画の目標値の点検、評価について説明させていただきます。

それでは、例として58ページをご覧ください。こちらは、現行計画の目標等の管理シートということで、基本指針の目標について、PDCAサイクルにより、点検・評価を実施させていただくものです。基本指針の目標として、「福祉施設の入所者の地域生活への移行」ということで、本項目の実績について、資料中ほどの、主な活動指標をご覧ください。「活動指標等の一覧」ということで、令和5年度はまだ出ておりませんが、令和4年度地域生活への移行者数は、実績として2人となっております。福祉施設の入所者削減数につきましては、8人となっております。こちらの要因としては、その下の評価の項目の令和5年度の欄に記載をさせていただきましたが、入所施設の退所者のうち2名については、地域での生活として自宅で生活を始めている一方で、退所者のうちの大半が亡くなったり、医療機関へ入院されたりしたことを理由として退所となった結果、これらの実績値につながったと評価しています。

次期計画においても「福祉施設の入所者の地域生活への移行」が目標値として挙げられており、更なる成果が求められていますので、引き続き、事業所への理解と周知を図るとともに、地域生活支援拠点等の整備、機能の強化に取り組むことで改善を図って参ります。その他の管理シートについての説明は、時間の都合上、割愛させていただきます。

また、65ページ以降については、障害福祉サービスの見込量と確保策ということで、次期計画において、実際に策定した数値を、最後のページの78ページまで掲載しています。こちら説明は省略させていただきますが、策定後、速やかに市のホームページの方にも掲載させていただきますので、そちらをご覧くださいと、ありがたいです。

説明は以上です。失礼しました。

(事務局)

はい、続きまして、(4)「個別避難計画について」ということで、説明させていただきます。

「個別避難計画」は、国が示している指針に沿って、避難行動要支援者制度登録者。本市では約2,000人いるのですが、本人の状態や、住居の場所等から計画作成の優先度が高いと市が判断する方について、先ほども説明しましたが、令和7年度までに「個別避難計画」を作成する予定となっております。令和4年度については、音羽地区、御津南部小学校区、桜木小学校区、障害者15件、高齢者26件を作成しました。ここからは、当日資料1に基づき説明します。

令和5年度行った対象地区につきましては、表のとおりとなります。令和5年度対象地区に加え、4年度の地区で新たに対象となった方などの「個別避難計画」の作成を行いました。こちらは3月18日現在でございますが、下のところですね、同意件数65名となっております。今年度は、65名の同意者のうち、障害者の方は36名でした。そのうち、現在「個別避難計画」は、52件完成しております。そのうち、障害者が25件となっております。今年度も残すところあと僅かですが、この65件を目指して、介護高齢課と障害福祉課で動い

ております。

令和6年度の対象地区につきましては、牛久保小学校区、天王小学校区、一宮中学校区、代打中学校区。優先度の高い方、障害者63名、高齢者64名、合計127名のうち同意のとれた方についての作成を行っております。説明は以上となります。

(副会長)

はい、ありがとうございました。

では、議題3の報告がすべて終わりましたけれども、各委員さんから何かご質問とかご意見ありましたら、お願いしたいと思います。

(委員：愛知県豊川保健所)

すいません。

(副会長)

愛知県豊川保健所様。

(委員：愛知県豊川保健所)

当日資料1のところ、同意が取れた方っていうのは、大体何割ぐらいなのか。その対象の中の合意が取れた数のこの割合としては。

(事務局)

はい、今年度で言いますと、同意を取れた方が65名で、不同意の方。不同意と言っても、例えば、グループホームに入ったり、施設に入ったり、入院されたりだとか、ご家族で支援が期待できるので、「個別避難計画」の作成が必要な方もいらっしゃいますので。82の方が不同意という形になっておりますので、同意されない方のほうが多い現状となっております。

(委員：愛知県豊川保健所)

ありがとうございました。

(副会長)

他によろしいですかね。それでは、これで、今日の議題で報告事項等すべていただきましたので、ここで進行ですね、会長さん方にお戻ししたいと思いますよろしく願いいたします。

(会長)

はい、ありがとうございました。

続きまして、議題4その他について何かありますか。ないようでしたら、これにて本日の議題をすべて終了しました。長時間にわたりありがとうございました。

引き続き、事務局からの事務連絡をお願いします。

(事務局)

ありがとうございました。事務局から連絡させていただきます。

今年度の豊川市障害者地域自立支援協議会につきましては、これで終了でございます。お忙しい中、ご参加いただきまして、ありがとうございました。また、本日の議事録につきましては、後日送付させていただきますので、よろしく願いいたします。

この後、3時から「障害者差別解消支援地域協議会」がございます。引き続き委員になられている方は、参加のほうよろしく願いいたします。予定としては15時から行います。

一度、机のレイアウトを変えさせていただきますので、この会が終わりましたら、一度ご退出の方をお願いいたします。また14時55分に、この会議室に戻っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(会長)

本日の会議につきましては、これにて終了させていただきます。誠にありがとうございました。

(全員)

ありがとうございました。